



昭和大学病院

検索



昭和大学病院附属東病院

検索

発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者 昭和大学病院長 板橋 家頭夫
編集責任者 広報委員長 中村 清吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
TEL: 03-3784-8000 (代表)



ご挨拶

両病院長より新入職員へのメッセージ

昭和大学病院病院長 いたはし かずお 板橋 家頭夫



常に
「至誠一貫」
で仕事にあたらう

※「まごころ」を尽くし、質の高い医療人を育成する

皆さん、ご入職おめでとうございます。

新卒・既卒を問わず、ほとんどの皆さんは昭和大学の理念が「至誠一貫」であることはご存じと思います。どのような職種であれ、病院を訪れる患者さんに対して「至誠一貫」の理念を忘れずに接していただきたいと思います。また、それによって患者さんの安心・安全につながります。さらには職員の皆さんがこの理念を共有することで昭和大学病院・附属東病院におけるチーム医療も成熟させることとなります。

さて、皆さんが入職後にまずするべき仕事は、医療安全管理対策ポケットマニュアルを読むことです。ただちに細かい内容を理解することは困難かもしれませんが、どのような項目が掲載されているのかを知ってください。あとはその都度必要に応じて熟読してください。

医療の現場にいる、いないに関わらず、すべての皆さんは病院を支えている医療職です。病院の信頼を損なうような言動や行動を厳に慎むとともに、「至誠一貫」の理念のもと高いプロフェッショナルリズム意識を持ってそれぞれの役割を担うことを切に望みます。

昭和大学病院附属東病院病院長 いながき かつのり 稲垣 克記



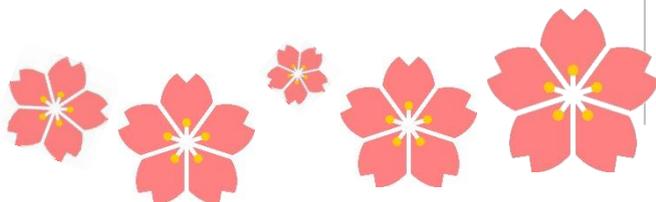
新入職員の皆様、改めましてご入職おめでとうございます。これから本病院が皆様にとりまして素晴らしい職場になると同時に、皆様が良き社会人になれるよう祈念いたします。

本学は昨年創立90周年を迎えました。昭和大学病院・附属東病院は一昨年、厚生労働省から全国に指導がありました医師の働き方改革の一環として、シフト勤務制を特定機能病院としては全国に先駆けて開始いたしました。

働き方改革には医師とメディカルスタッフの意識改革が必要です。就業規則を踏まえたシフト勤務体制の構築には職員、地域医療機関のご理解とご協力だけでなく患者さんへの協力依頼も必要となります。シフト勤務による診療体制や就業時間内での患者さん・家族への病状説明など今までとは異なる新しい概念が必要となります。

昭和大学病院附属東病院では糖尿病代謝内分泌内科、脳神経内科、精神神経科、眼科、麻酔科ペインクリニックに加え2017年7月から脊椎・股関節・人工関節・小児以外の整形外科（手の外科・肘関節外科・肩関節・膝関節・足の外科・骨折一般等）が東病院に拠点を移して診療を開始し、それに伴いリハビリテーション科も稼働しました。昨年からは、睡眠医療センター・呼吸器ケアセンターを設置して診療を開始しております。

このように今、昭和大学病院・附属東病院は90年の歴史の中では激動のまっただ中にいますが、両病院が共に連動・連携しながら機能的に素晴らしい病院に改革していくように、そして、患者さんのために温かみのあるヒューマンティーあふれる医療を展開していきましょう。



無痛分娩の紹介

無痛分娩とは、薬剤を用いて痛みを軽くしてお産することです。昭和大学病院においても希望者に対して行う体制が整備されました。

昔からお産の痛みはとても強いもので、19世紀に手術のための全身麻酔が発見されると、すぐにお産にも利用されるようになりました。現在の無痛分娩は全身麻酔ではなく、硬膜外麻酔という背中からの麻酔が用いられます。硬膜外麻酔は体の一部の痛みをとる方法で、お母さんの意識ははっきりしていて、赤ちゃんへの影響も少ない麻酔の方法です。無痛分娩中のお母さんがご家族と一緒にリラックスして過ごすことも可能です。また、「産後の回復が早かった」という感想も、しばしば耳にします。



当院の無痛分娩は麻酔科専門医が担当しています。安全で質の高い無痛分娩のためには、麻酔科医だけでなく産婦人科医、小児科医、助産師、看護師など多くのスタッフが必要ですが、当院ではそれらのスタッフ皆で協力して無痛分娩を行っています。現在のところ週に3日のみ行っていますが、将来は、妊婦さんのご希望があれば、いつでも無痛分娩を受けられるような体制を作ることが目標です。

一昨年、無痛分娩の事故がマスコミに取り上げられました。無痛分娩も医療行為ですので、副作用や合併症は起こりえます。しかし事故の多くは、予防策をきちんと講じることで防ぐことができると私たちは考えており、当院では、安全に十分に配慮した体制を整備しています。

無痛分娩についてもっと知りたいという方がいらっしゃいましたら、当院のホームページをご覧ください。また当院で無痛分娩をお考えの方は、無痛分娩クラスにご参加いただき、無痛分娩についてよく理解したうえで、お受けになるかを決めてください。無痛分娩クラスのご案内は産婦人科外来にありますので、お気軽にスタッフにお声がけください。

経歴

渋谷区千駄ヶ谷の育ちです。千葉大学医学部を卒業し、千葉県内の施設で麻酔科研修をしました。研修後に英国の大学院で学び、帰国後まもなく産科の麻酔の勉強を始めました。ある若い妊婦さんが帝王切開術中にとっても具合が悪くなったことがきっかけです。無痛分娩の経験を多く積んだのは北里大学病院です（50年も前から無痛分娩を行っている老舗です）。2018年7月より昭和大学に勤務し、無痛分娩や帝王切開術の麻酔などを担当しております。



【^{かとう} 加藤 ^{りえ} 里絵教授】

好きな言葉

『今日を楽しみたいなら、花を買いなさい。1年後を楽しみたいなら、花を植えなさい。

10年後を楽しみたいなら、木を植えなさい。100年後を楽しみたいなら、人を育てなさい』

私は10年後そして100年後を楽しむ人間でありたいです。

「頭頸部がん特に口腔がん」

と言えば **昭和大学病院**



歯科口腔外科医師 **頭頸部外科医師**

昭和大学は医系総合大学でありその特徴を生かし「頭頸部腫瘍センター」を設置しています。頭頸部がん（口腔がん）診療に耳鼻咽喉科医師、歯科口腔外科医師が合同そして同等な立場で診療にあたっています。

特徴1：医科歯科合同治療

「頭頸部がん専門の医師」と「口腔がん専門の歯科医師」が合同で診療にあたっています。

特徴2：術後の口腔機能を考慮した治療

「頭頸部がん専門医」と「口腔外科学会専門医」がそれぞれの長所を生かし患者さんの状態に合わせた治療を行っています。

特徴3：術前から術後の機能改善のため口腔リハビリテーションを行っています。

口腔リハビリテーション科の歯科医師が術前から診療を行うことで術後の口腔機能を考えたりリハビリテーションを行っています。

10年ほど前は乳がんの手術と言えば、乳房切除術（乳腺全体を切除する方法）が主流でした。しかし、最近ではできるだけ乳房を残して治療を行う、乳房温存療法を選択する割合が高くなり、2011年次の日本乳癌学会全国乳がん登録において58.6%に行われています。この治療法はまず、乳房を部分的に切除する乳房温存手術で、がんを取り除きます。その後、乳房内に残存している可能性がある微小ながん細胞を根絶するために、放射線治療を行います。

乳房温存療法と乳房切除術ではどちらが再発しやすいですか？

放射線治療により局所再発を約1/3に減少させることが可能であることが分かっています。そのため、乳房を温存した場合でも放射線治療を行えば、乳房切除術を受けた場合と予後は変わりありません。

そこで「SAVI」の登場です！

SAVIとは？

SAVI®アプリーケーターは、加速乳房部分照射法に用いられる新しいタイプの医療機器です。乳房の中から直接、放射線を照射できるように機械（カテーテル）を一時的に埋め込んで放射線治療を行います。これにより乳房全体ではなく切除した部分のみ（最も再発しやすい部分）に放射線を照射することができ、また、従来の治療と比較して非常に短い期間にて治療が可能です。

SAVIを用いた乳房温存療法は2006年にアメリカで承認され、2013年5月までに14000人以上に施行しています。我が国においては2013年6月に承認を取得し、密封小線源治療として保険診療が可能です。当院では2014年2月よりSAVIを用いた治療を開始しました。

従来の放射線治療との違い

大きな違いは以下の2点です。

- （1）全乳房照射ではなく、デバイスがある一定の部位のみへの照射である。
- （2）通常の照射より1回の照射線量が高く、1日2回の照射を行うことで、従来約5-6週間程度かかる期間を5日間に短縮できる。

※治療中の特有な合併症としては重大なものではありませんが、挿入された器具による違和感を感じる方はいらっしゃいます。

<答えてくれたのはこの方>



乳腺外科 診療科長
なかむら せいご
中村 清吾教授



<全乳房照射>



<加速乳房部分照射>

開催報告

病院ワークショップが開催されました

2019年2月8日（金）～9日（土）にかけて「定期入院を増やすには」「逆紹介・返書の推進（病診連携の充実）」をテーマとして病院ワークショップが開催されました。

このワークショップは、昭和大学病院・附属東病院の多職種混合の4グループによって討議され、昭和大学病院・附属東病院の現状診療体制・運用をもとに、問題抽出、改善策、具体案を検討しました。

グループ討議の全体発表では、他のグループやファシリテーターからの様々な意見や質問が出て、活発な討議となりました。

今回の各グループから提案された改善策をどのように実現していくか、更に検討が必要ですが、今回も多職種混合でのワークショップを通じて、職種を超えた交流ができ、有意義な時間を過ごすことができました。

【当日の様子】



開催報告

エマルゴコース研修会が開催されました

2019年2月16日（土）、昭和大学病院・附属東病院にて、エマルゴコース研修（机上シミュレーションを用いた災害訓練）が行われ、当院での開催は昨年に引き続き3回目となります。

今回の訓練では、震度5強の地震が発生し、院内におけるエレベーターの一時停止、また、地震の影響により、旗の台駅付近で東急池上線の脱線衝突事故が起こるといった想定で行われました。

今後もこのような訓練を重ね、病院全体の災害対応能力の向上に努めてまいります。

【訓練の様子】



◆◆ 訓練に参加した感想 ◆◆

何をするのもわからず不安な気持ちで参加しましたが、訓練の回を増すごとにチーム連携を意識し、対策を講じることができ、それぞれの部署でどんな対応が必要なのか体験することができました。

当院は地域の災害拠点病院として災害発生時には的確かつ迅速な組織対応が求められるため、今後も病院全体で定期的な災害訓練を行うことが大切だと感じました。

開催報告

緩和ケア研修会が開催されました

2019年2月17日（日）昭和大学病院にて、「がん診療等に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（以下、「緩和ケア研修会」）」が開催されました。

今回より新指針での開催ということで、事前にインターネット上のe-learningを受講し、予備知識を学習した上での参加となり、当日は、院内外から集まった計28名の参加者と、ファシリテーターの先生方とともに、演習を中心としたプログラムを行いました。

参加者からは「症例を交えた経験をする事で、より実践的な内容になった」「実際に診療に活かせるように頑張りたい」といった感想があがり、大変有意義な研修会となりました。

当院は「がん診療連携拠点病院」に認定されているため、年2回の緩和ケア研修会を開催しております。（次回は2019年7月を予定しております。）



開催報告

ひな祭り会が開催されました

ひな祭り会 開催

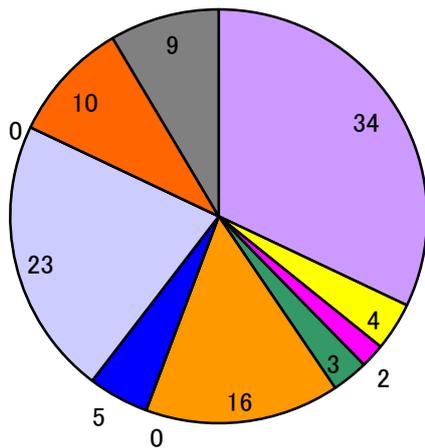
2019年3月1日（金）、昭和大学病院入院棟4階小児医療センターにて、『ひな祭り会』が開催されました。

ひな祭りについての紙芝居や、ひし餅をモチーフにしたゲームなどが行われ、子供たちは楽しいひな祭り会を過ごしていました。



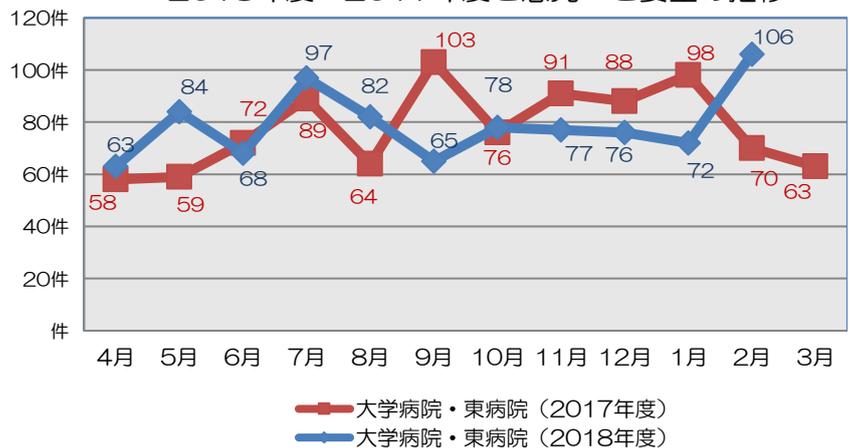
ご意見・ご要望	回答	回答部署
<p>中央棟地下1階放射線科のテレビは無音で字幕表示もなくつまらない。音が出せないのなら字幕が出る設定にして欲しいです。</p>	<p>放射線治療科では患者さん呼び込む声がテレビの音でかき消されないようにテレビは無音で字幕が出る設定にしております。</p> <p>しかし番組によっては字幕が出ない場合があります。字幕が出ない場合があることについてテレビ周囲に掲示させていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。</p>	<p>放射線技術部</p>
<p>病室の入口に「担当看護師」の欄があるにもかかわらず、表示されている時と、表示されていない時があります。患者の身としては看護師の名前を覚えたいので表示してもらえると助かります。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。病室の入口に名前のマグネットを貼るルールとなっております。しかしスタッフ全員に周知できておらず申し訳ございませんでした。今後は、毎朝チームリーダーと一緒に確認するよう指導いたしました。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございました。</p>	<p>看護部</p>

2019年4月掲載分
ご意見・ご要望の内訳
昭和大学病院・東病院総件数
106件



- 態度・接遇
- 診療内容
- 予約
- 待ち時間
- 食事
- 会計システム
- 売店
- 環境(清掃・設備備品・エレベーター)
- 環境(駐車場)
- 感謝
- その他

2018年度・2017年度ご意見・ご要望の推移



2019年2月22日(金)東病院3階デイルームにおいて第32回昭和大学病院附属東病院院内コンサートが開催されました。3回目の出演となる多摩男声合唱団のメンバー「ジューズ」によるもので、‘(^♪スカッと爽やか～コココーラ～’の出だして始まり、入院生活の中で声を出す事、歌う事が少なくなっている患者さんと一緒に歌う楽しい一時でした。

気持ちが明るくなる雰囲気の良い時間を過ごせました。



♪ 曲目 ♪

- ・オーラリー(ラブミーテンダー)
- ・アカシアの径
- ・雪の降る街を

♪ 一緒に唄った歌 ♪

- ・白い思い出
- ・希望
- ・ふれあい
- ・ともしび

♪ 患者さんからの声 ♪

- ・大変よかった。歌う事が無くなっていたのでとても楽しかった。
- ・障害を持った息子がとても喜んでいました。
- ・いい雰囲気を有難う。
- ・久しぶりに楽しかった。懐かしい曲も良かった。
- ・涙が止まらないほど感動しました。リハビリの為途中退場で残念、時間調整をして欲しかった。

編集後記

麻醉科 おおだけ ひろし 大嶽 浩司 教授

インフルエンザが猛威を振るった冬も終わり、暖かな季節がやってきました。春の陽気と共に今年もフレッシュな新人達がたくさん入職し、元気な声があちこちで聞かれます。彼らはまだまだ未熟なところ多いですが、希望とやる気に満ち溢れています。春の新緑をもたらしてくれる彼らと共に今年度も地域の皆様の健康に貢献すべく職員が一丸となって高度医療に取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。

今までこの病院だよりを発行してくれたフォトセンターの方がご勇退されました。感謝の念をここに表したいと思います。

昭和大学病院・附属東病院の理念

- ・患者本位の医療
- ・高度医療の推進
- ・医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- ・患者さんと共にチーム医療を実践する。
- ・特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- ・教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- ・人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

ご意見・ご要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jp までお願いいたします。

病院広報委員会委員： 磯飛 雄一、稲垣 克記、大嶽 浩司、五藤 哲、佐藤 久弥、白井 敦、鈴木 隆、鷺見 賢司、富田 英、中村 綾子、中村 清吾、平野 勉、水庭 隆史、結城 祐磨、吉田 仁、渡邊 聡 (50音順)